

## 第6学年 道徳科学習指導案

日 時 平成29年11月 2日 (木) 3校時  
児 童 6年1組 男 8名 女17名 計25名  
授業者 佐藤和生  
特別支援 千葉芳江

1 主題名 相手の立場を考えて【B 親切、思いやり】

2 教材名 「ずっと忘れない」(「岩手県版郷土資料集5・6年」)

(岩手県道徳教育郷土教材集 ふるさと いわたの心 小学校高学年編) 岩手県道徳教育研究会)

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

新学習指導要領第5学年及び第6学年の内容の「B 主として人との関わりに関すること」の「親切、思いやり」は「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」である。これは、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすることに関する内容項目である。この内容項目は、次のように発展していく。

低学年 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	中学年 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	高学年 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	中学校 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。
--------------------------------	-------------------------------	--	---

思いやりとは、相手の気持ちや相手の立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることであり、相手の立場を考えたり気持ちを想像したりすることを通して、励ましや援助をすることである。高学年の段階になると、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなってくる時期でもある。このような時期であるからこそ、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が必要である。そこで、相手の気持ちや立場を自分のこととして捉え、自分自身にできることを考え、相手のために思いやりのある行いをしようとする態度を身に付けさせたいと考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、優しい児童が多く、お互いに助け合い、思いやりのある行動が数多く見ら

れる傾向にある。1学期の道徳科の授業「心に通じた『どうぞ』のひとつ」では、相手のことを考えることや相手の親切に気付くことの大切さについて学習した。また、九州北部の豪雨災害の際には、児童会を中心に支援を呼びかけ、募金活動を行った。

事前の意識調査では、「思いやりのある行動や親切、人助けなどをする方か」という問いに対して、「する方だ」が6名、「まあまあする方だ」が13名、「あまりしない方だ」が5名、「しない方だ」が1名という結果であった。相手のことを考えて親切にするという理由がある反面、自分も親切にされたから、自分が困っている時に助けてもらいたいからなどの理由もあった。また、しない理由には、自分がやらなくても誰かがやってくれるからという理由が挙げられていた。親切などを行う相手は、友達や家族など身近な人達が多かった。

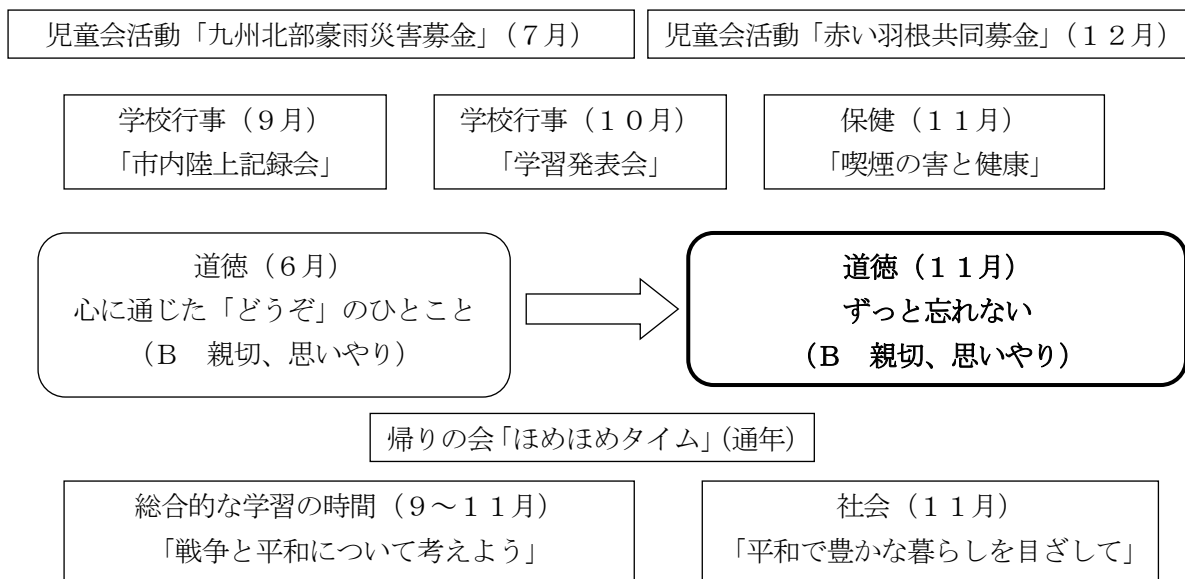
このような実態をふまえ、身近な人達だけでなく、広い視野で困っている人のために思いやりの心を持ち、その人達の立場に立って行動しようとする態度を育てたいと考える。

### (3) 教材について

本教材は、東日本大震災を扱った教材である。震災後の混乱した中、初めは校長先生の話の「人を元気づけ、勇気づけるのは、人なのです。」という言葉の意味を理解していなかったなおとが、たかしたちの会話や行動、母の言葉、そしてお金を送った学校からの手紙などを通して、校長先生の言葉の意味を理解していくという内容である。ボランティアを行うことを躊躇していたなおとが、友達との話し合いなどから、相手の立場に立ち、心から相手を思いやることの大切さを考え、自分自身も被災した人のためにできることがあることに気付いていく。

東日本大震災を経験し、現在なお支援を受け続けている児童にとって共感しやすい身近な教材であり、相手の立場を自分の立場に置き換えて考え、相手のために行動しようとする態度を育てるために効果的な教材である考える。

## 4 主な各教科等との関連



## 5 本時の指導

### (1) ねらい

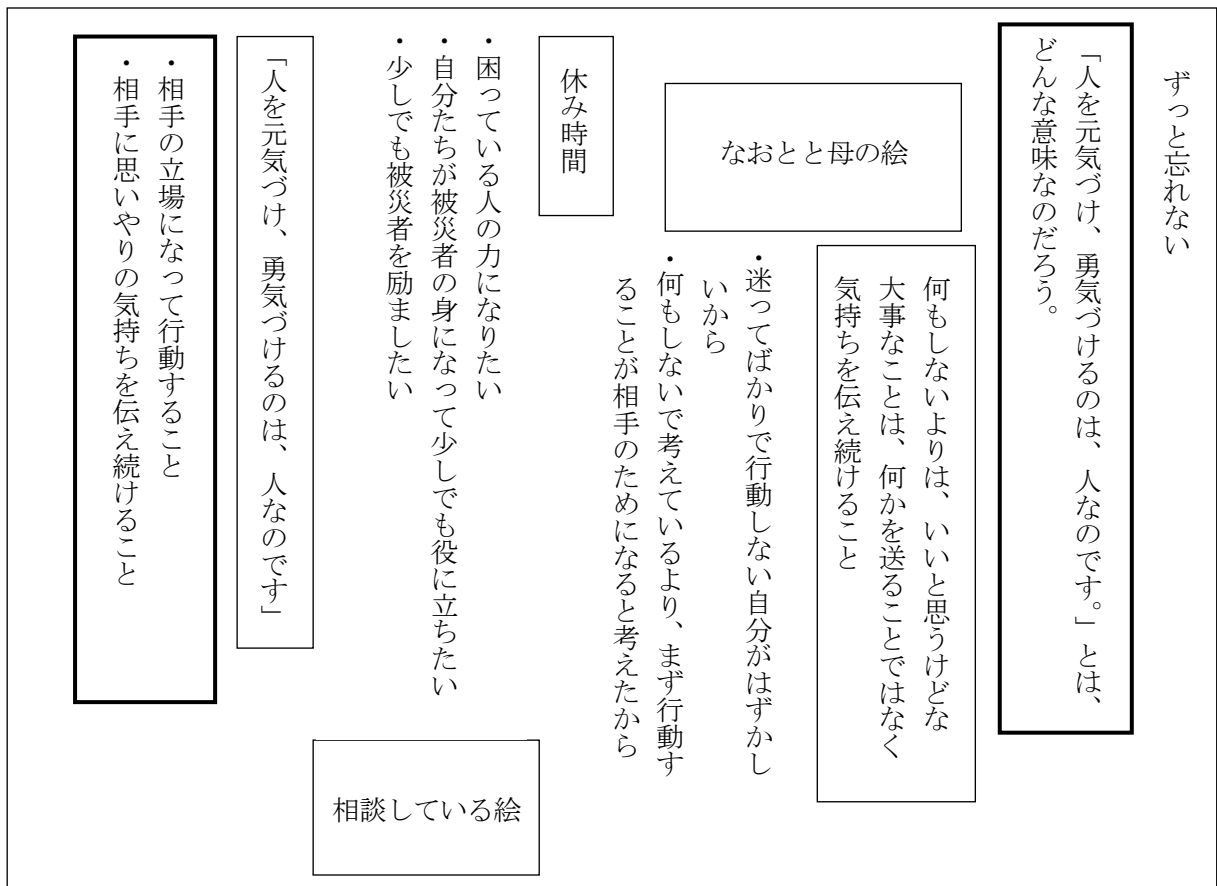
ボランティア活動を行うなおとの心情や行動を共感的または批判的に考えさせながら、相手の置かれている状況を自分に置き換えて考え、相手を心から思いやる大切さに気付かせ、相手の立場に立ち、思いやりのある行動を行おうとする態度を育てる。

(2) 展開

階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	<p>1 教材や価値への関心を高め、課題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートの結果を知る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から着目する視点を示して考えさせる。</li> </ul>
	<p>2 教材を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を交流し、課題を立てる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残ったことや言葉を話し合わせる。</li> </ul>
展	<p>「人を元気づけ、勇気づけるのは、人なのです。」とは、どんな意味なのだろう。</p>		
開	<p>○なおとが母の言葉を聞き、自分はずかしく思えてきたのはなぜだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迷ってばかりで行動しない自分がはずかしいから</li> <li>・何もしないで考えているより、まず行動することが相手のためになると考えたから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なおとが、相手の立場を考え、気持ちを伝え続ける大切さに気付いたことを押さえる。</li> </ul>
前	<p>○なおとたちが休み時間を使ってまで一生懸命に相談をしたのはどんな気持ちからだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人の力になりたい</li> <li>・自分たちが被災者の身になって少しでも役に立ちたい</li> <li>・少しでも被災者を励ましたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者の置かれている状況を考え、相手の立場に立っているなおとたちの心情に気付かせる。</li> <li>・事前アンケートや今までの募金活動を想起させながら考えさせる。</li> </ul>
段	<p>◎「人を元気づけ、勇気づけるのは、人なのです。」とは、どんな意味なのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを考えた思いやりの心や行動が、人を元気づけたり勇気づけたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人組で結論をまとめさせるが、グループで1つに結論をまとめる必要がないことを確認する。</li> </ul>
30分	<p>【効果的な中心発問の設定】 教材を問う（テーマ発問）</p>	<p>【話し合いの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習形態 <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣同士や班（3人組）</li> </ul> </li> <li>○学習の進め方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・結論をまとめる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかのグループに発表させた後、全体でも言葉の意味について考えさせたい。</li> <li>・初めは言葉の意味を深くは理解していなかったなおとが、理解できるようになったのはなぜなのか考えさせる。</li> </ul>
	<p>評価の方法 話し合いの観察、発言 評価の視点 なおとの心情や行動を通して、相手の置かれている状況を自分に置き換えて考え、相手を心から思いやる大切さを考えることができたか。</p>		

展 開 後 段	3 道徳的価値の内面的自覚を深める。 ○今日の授業で学んだことをもとに、相手の立場に立って思いやりある行動を行うことについて、これまでの自分や、これからの自分について考えたことを具体的に書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは深く考えず、募金をしたり人に親切にしたりしてきたが、これからは、相手のことをしっかり考えていきたい</li> <li>・自分も相手の立場を考えた行動をしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日学んだことを簡単に振り返らせる。</li> <li>・できるだけ広い視野で自分のことを考えさせていきたい。</li> </ul>
	<p>【自己を見つめる発問の設定】 具体的な価値（内容項目）を入れて問う</p> <p>評価の方法 うみねこノートの記述 評価の視点 相手の立場に立って、思いやりのある行動をしていくことについて考えることができたか。</p>		
終 末 2 分	4 今後の実践につなぐ。 ・児童の振り返りを交流する。		・児童が書いた記述を発表させ、今後の実践につなげさせる。

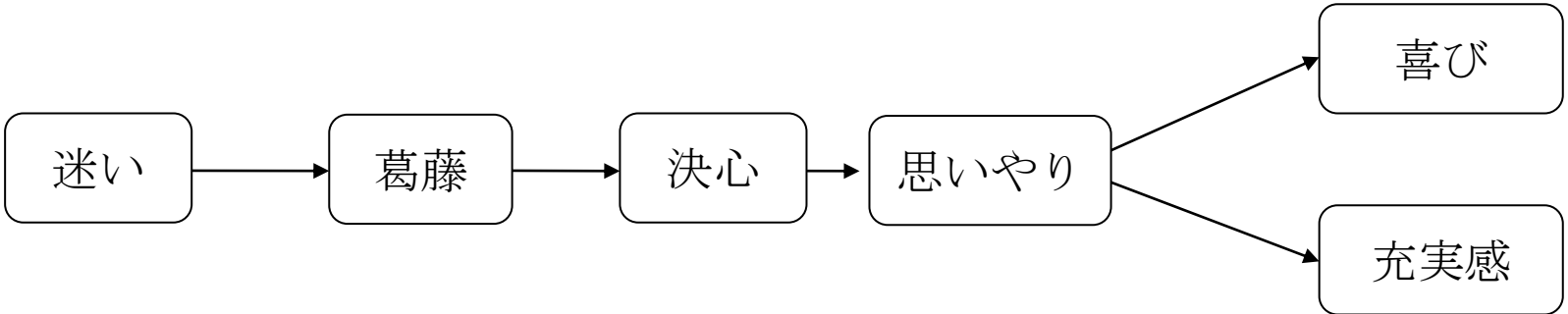
(3) 板書計画



(4) 教材分析図

教材名 「ずっと忘れない」(「岩手県道徳教育郷土教材集 ふるさと いわての心 小学校高学年編」岩手県道徳教育研究会)

ねらい ボランティア活動を行うなおとの心情や行動を共感的または批判的に考えさせながら、相手の置かれている状況を自分に置き換えて考え、相手を心から思いやる大切さに気付かせ、相手の立場に立ち、思いやりのある行動を行おうとする態度を育てる。

場面	全校朝会で校長先生の話聞き、もやもやしている場面。	友達や母親からボランティアを進められる場面。	友達と支援物資を集める相談をする場面。	手紙を読み、校長先生の言った言葉の意味に気付く場面。
状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災のために、晴れ晴れとした気持ちになれない。</li> <li>「人を元気づけ、勇気づけるのは、人なのです。」の言葉の意味を十分に理解できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災した人達のために具体的に何ができるのか迷い、ボランティアに積極的になれない。</li> <li>母の言葉から、ボランティアに参加する決心をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災した人達の立場になり、自分達に何ができるか友達と真剣に話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送られてきた手紙を読み、自然と笑顔になる。</li> <li>「人を元気づけ、勇気づけるのは、人なのです。」の言葉の意味を理解する。</li> </ul>
登場人物の心の動き	 <pre> graph LR     A[迷い] --&gt; B[葛藤]     B --&gt; C[決心]     C --&gt; D[思いやり]     D --&gt; E[喜び]     D --&gt; F[充実感]     </pre>			